

ISSN 0910-2396

野鳥だより

—北海道—

北海道野鳥だより第137号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成16年9月21日

クロツラヘラサギ



2004. 6. 6 鶴川河口 撮影者 北山政人

〒063-0801 札幌市西区二十四軒2条6丁目

1-31



も く じ

美唄市和田公園とその周辺の鳥

	藤巻 裕蔵	2
苫小牧地方の野鳥	佐藤 辰夫	4
クイナの名の由来	武沢 和義	7
鳥好きの文学散歩 4 小樽の文学碑		
	高橋 良直	7
クロツラヘラサギ道内移動	広 報 部	8
探鳥会ほうこく		9
探鳥会あんない		15
鳥 民 だ よ り		16

美唄市和田公園とその周辺の鳥

藤 巻 裕 蔵

和田公園は美唄市のほぼ中央、JR美唄駅の東側1.3kmにある面積約2haの公園である。周囲は住宅地に囲まれている。公園の中央は池で、公園面積の半分近くを占めている。園内には樹木があるが、立木密度は低く、林床は芝生で、春から秋にかけては頻繁に草刈りが行われているため、野鳥が生息できるような下草はない。

わが家がこの公園の北側にあるので、家にいるときにはいつも公園にいる鳥を観察できる状況である。2002年4月～2004年4月の約2年間に、この公園とその周辺の住宅地で観察した鳥類の記録を紹介する。

観察した鳥類は、全部で48種である。結果を表1にまとめたが、これらの中には、ほぼ毎日見られる種から、たった1回しか観察されない種まで、観察される状況はさまざま、また上空を通過しただけの種も含めてある(表の備考欄を参照)。表では普通に見られる種を○、まれに見られる種を△で示してある。ただし、「普通」と「まれ」の基準はとくにきめていない。

樹木があるが、前述のように密度が低いいためか、森林性鳥類はそれほど多くなく、ムシクイ類はほとんど姿を見せず、カラ類で普通に見られるのはシジュウカラだけであった。また、公園には池があるが池の周囲には鳥の隠れ場となるような草が生えていないため、水鳥類はめったに飛来せず、飛来してもすぐに飛び去ってしまう。水辺の鳥で普通に姿を見せるのは、採餌に来るカワセミだけであった。

一般に、北海道では夏鳥の占める割合が多いので、観察できる種数は5～6月に増加し、夏鳥の渡去とともに少なくなる。しかしこの公園に飛来する鳥を見てみると、渡り時期の3～4月に種数をもっとも多くなり、5～6月にはそれほど多くならなかった。これは、前述のように公園の植生が鳥の生息に向いておらず、多くの種が一時的に飛来

するだけであるためであろう。ただし、秋の渡り時期には種数はそれほど多くならなかった。その理由はよくわからないが、秋の南下は春の北上のときより速く通過するために、観察される頻度が低くなるからではないかと思う。

記録された種のうち、観察例数が少ない種など特記すべき種については、種ごとに説明を加えた。

種ごとの説明

アオサギ：まれに単独個体が上空を通過する。夜間に飛んだこともあった。

マガン：4月上旬、ときどき数羽から多いときで約150羽が上空を通過。この時期にはまだ水田は雪に被われており、降りられずに飛び回っていて、住宅地の方まで飛来するようである。

オオハクチョウ：4月上旬、ときどき数羽から多いときで約100羽が上空を通過。住宅地にまで飛来するのは、マガンの場合と同じ理由であろう。

カルガモ：2003年と2004年の4月にそれぞれ2羽が飛来したが、すぐに飛び去った。

ミコアイサ：2003年11月17日、池に雌1羽が飛来。

オオタカ：2003年1月14日に成鳥1羽が飛来。

チゴハヤブサ：2003年には公園から約300m離れた住宅地のヨーロッパトウヒに営巣し(8月20日巣立ち)、ときどき公園に飛来した。

イソシギ：2003年4月18、24日に1羽が飛来した。

アオバト：2003年8月7日になき声が聞かれた。

キジバト：2年とも4月に1～2回飛来しただけである。

カッコウ：2002年8月17日、幼鳥1羽の記録だけである。

カワセミ：毎年5月上旬から毎日池に飛来して、採餌している。付近で繁殖しているようであるが、いまのところ

営巣場所は不明である。

アリスイ：2年とも5月上旬に2～3日間、なき声が聞かれた。

ヤマゲラ：2003年10月31日と2004年4月26日に声が聞かれた。

ヒバリ：渡来始めの3月末～4月初めに、ときどき上空を通過した。この時期、農耕地はまだ雪に被われていて、雪融け部を探しているのであろうか、住宅地にも飛来するようである。

モズ：2年とも4月初めに飛来するだけである。

キレンジャク：12月中旬から1月中旬にかけて10数羽から200羽の群れで飛来し、公園のナナカマドの実を食べにやってくる。1月15日ころまでにナナカマドの実が食べつくされると、数は急に少なくなったが、ツグミとは違って1月末まで少数が残っており、その後見られなくなった。3月中旬から4月下旬にかけて北上途中の群れが飛来する。

ヒレンジャク：キレンジャクの群れに混ざり、春の渡りの途中、短期間だけいる。2003年3月26日～5月3日に見られた。

ツグミ：1月15日ころまでにナナカマドの実が食べつくされると、急激に姿を消し、3～5月北上の途中で飛来するが、個体数は少ない。

アカハラ：5～6月に数回囀りが聞かれただけである。

ウグイス：2003年4月24日の1回だけ囀りが聞かれた。

エゾムシクイ：2003年8月13日にわが家の玄関フードのガラスに衝突して死亡したらしい。普段ここでは観察できないので、移動中のものであろう。すでに換羽を終えており、渡りはじめていたのかもしれない。

センダイムシクイ：2003年5月12、21日に囀りが聞かれただけである。

コサメビタキ：2003年8月18日に幼鳥1羽が観察された。

エナガ：2004年1月27日、1回だけの記録である。

ヒガラ：2003年5月17日に囀りが聞かれただけである。

シジュウカラ：8月上旬から群れ、動きまわる。

ヤマガラ：2004年2月24～25日、3月13日に囀りが聞かれた。

キバシリ：2004年4月2日、2羽が観察された。

ホオジロ：2003年8月15日に雌1羽が見られた。

アオジ：8～10月には、よく姿を現すが、春にはほとんど飛来しない。

アトリ：4月に数羽から10数羽の群れで採餌するのが見られ、4月中・下旬には囀りも聞かれる。

ベニヒワ：2003年2月23日～3月1日に2羽がシラカンバの花穂（尾状花序）を食べていた。

イカル：2003年5月21日に囀りが聞かれた。

ハシボンガラス：2年とも1つがい繁殖した。ただし、

2003年は市により巣が落された。

表1. 美唄市和田公園とその周辺の鳥類

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アオサギ*			△	△				△	△			
マガン*			△	△								
オオハクチョウ*			△	△								
カルガモ				△								
ミコアイサ												△
トビ	△	△	△	△			△	△	△	△	△	△
オオタカ	△											
チゴハヤブサ					△	△	△	△	△			
イソシギ				△								
ユリカモメ											△	
アオバト								△				
キジバト				△			△	△				
カッコウ					○	○		△				
カワセミ					○	○	○	○				
アリスイ				△	○	○						
ヤマゲラ				△								△
アカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒバリ*			△	△								
ハクセキレイ	△		△	○	○	○	○	○	○	○	○	△
ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モズ				△	△							
キレンジャク	○		△	△	△							
ヒレンジャク			△	△								
ツグミ	○		△	△	△				○	○	○	○
アカハラ					△	△						
ウグイス				△								
センダイムシクイ					△							
エゾムシクイ								△				
コサメビタキ								△				
エナガ	△									△	△	
ヒガラ					△							
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤマガラ			△	△								
ゴジュウカラ			△	△			△	△				
キバシリ				△								
ホオジロ								△				
アオジ				△				○	○	○		
アトリ				△	△							
カワラヒワ				△	△	○	○	○	○	△	△	
マヒワ				△	△							
ベニヒワ				△	△							
ウソ				△	△	△						
イカル					△							
シメ	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
スズメ	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
コムクドリ				△	△							
ムクドリ				○	○			○				
ハシボンガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○=普通、△=まれ、鳥名に*が付けたものは上空通過

〒072-0005 美唄市東4条北2丁目6-1

苫小牧地方の野鳥

佐藤辰夫

はじめに

苫小牧地方の野鳥については1986年に発行された日本野鳥の会苫小牧支部の「苫小牧の野鳥」があります。これはそれまでに確認されたものをまとめたもので、市内全域で265種の鳥を記録しています。ウトナイ湖については、1981年のサンクチュアリオープン以前については、筆者がまとめた「ウトナイ湖とその周辺の鳥類」(1980年本誌41号)があり、オープン後についてはネイチャーセンターに常駐するレンジャーによる観察記録が蓄積されています。ウトナイ湖以外での継続した観察記録としては、筆者の知る限り、「北海道大学苫小牧地方演習林の鳥類相」(1972年・1973年 北海道大学農学部演習林研究報告第29巻・第30巻)、村井雅之氏の「口無沼の野鳥」(1993年4月 苫小牧郷土文化研究会 郷土の研究第6号)、鷺田善幸氏の「樽前大沼の野鳥」(2002年3月 苫小牧市博物館研究報告第12号)がある程度です。その地域の自然環境を知る上で野鳥のデータは欠かせません。それも短期間ではなく長期間にわたる観察記録が必要であると思います。

筆者は、特定の地域を決め定期的に観察するため、2001年より3年間、環境が異なる地域として、樽前山、高丘森林公園、苫小牧川の3か所を選びそれぞれの地域をほぼ1週間に1回定期的に観察してきました。今後も観察を継続していくつもりですが、とりあえず3か年の観察記録をもとにリストをつくりましたので報告したいと思います。

A. 樽前山

(1) 観察地域の概要と観察期間・方法

樽前山は現在も火山活動が続いている活火山です。世界

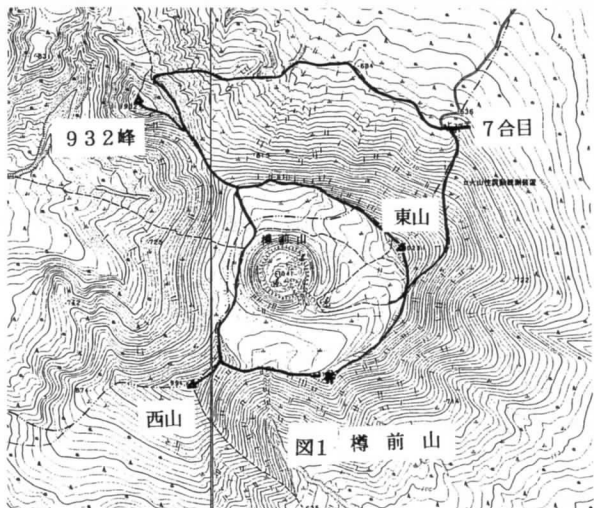


図1 樽前山

的にも珍しい三重式火山で外輪山に囲まれて溶岩ドームがあり、ドームの頂上は標高1,041m、外輪山で一番高い東山の頂上は、1,023mあります。現在は登山自粛となっていますが、人気のある山で、土日は駐車場が一杯になり道路にも並ぶほど登山者が来ます。登山口の樹林帯にはナンカマドなどの高木がありますが、それ以外登山道付近では砂礫地にイソツツジ、マルバシモツケ、ミネヤナギ、ウコンウツギ、ハナヒリノキ、ダケカンバ、ミヤマハンノキ、ウスノキ、オオバスノキ、コメバツガザクラ、ガンコウラン、コケモモ、イワヒゲ、イワギキョウ、イワブクロ(別名タルマエソウ)などの低木や草本のいわゆる高山植物が見られます。春はコメバツガザクラ、初夏はイソツツジ、盛夏はイワブクロの花が、秋～初冬はシラタマノキの実が高山草原を彩ります。

観察は道道樽前錦岡線のゲートが開く5月の連休明けから、11月末ゲートが閉まるまでの7ヶ月間、主として午前中に行いました。観察区域は7合目から上、森林限界から頂上までと決め、登山道を歩きながら8倍の双眼鏡での目視、および声の聴取により鳥種を識別しました。コースは主に7合目ヒュッテの向かいにある風不死岳登山口から932峰を経て西山(994m)までとしました。時々7合目の駐車場から展望台を経て東山まで、また外輪山を一周することもありました。

(2) 観察結果

3ケ年に確認した種類は25科66種です。表1のA欄に○がつけられています。科名、種和名、および配列は日本鳥類目録改定第6版(日本鳥学会 2000)に従いました。

これと言って特筆すべき鳥はいませんが、ヒバリとビンズイは外輪山の斜面やなだらかな傾斜のお花畑、そして外輪山の内側の火口原にも生息しています。どんな棲み分けをしているのかわかりませんが、春から夏にかけてその特徴ある囀りが聴かれます。この山には水場はありませんが、キセキレイとハクセキレイも見られ、ドームの壁面で囀る姿も見られます。モズ、ノビタキ、ホオジロなどの鳥は、イソツツジ・ウコンウツギ・ノリウツギなどの低木やススキなどが生えるなだらかな斜面に見られますが、2003年はノビタキの姿を見ることは出来ませんでした。ヤマシギは7月の夕方7合目の駐車場の上空を特徴ある声で鳴きながら飛び回るのを目撃しています。

筆者が興味を持っているのは9月から11月までの渡りの時期です。932峰にいると上空をタカ類が通過する頻度も

高くなり、特にノスリが多く見られます。シジュウカラやヒガラなどのカラ類も多くなり斜面の低木に沿って峰を越えます。カヤクグリ、マミチャジナイ、ツグミ、カシラダカ、アトリ、ベニマシコ、ホシガラスなどはこの時期に見られたものです。またこの時期比較的大きな群れで見られるのはマヒワとハギマシコで、50~100羽の群れが次々と峰や稜線を越えて行きます。これらの鳥はほとんどが南西にあるホロホロ山・徳舜誓岳方向に飛んで行きます。この樽前山も渡りの小さなコースになっていることは間違いのないと思います。

B. 高丘森林公園・緑ヶ丘公園

(1) 観察地域の概要と観察期間・方法

この公園は市街地に近く、ゆるやかな丘陵地です。いくつかの広場とそれをつなぐ散策路があり、多くの市民が季節を問わず訪れるところで、保健保安林と水源涵養保安林に指定されています。かつては広葉樹の天然林でしたが、薪炭材とするため数回にわたり伐採されました。現在70種ほどの樹木が生育しており、広葉樹としてはミズナラ、キタコブシ、ドロノキ、シラカバ、オオヤマザクラ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、ナナカマドなどがあり、針葉樹としてはトドマツ、イチイ、カラマツ、ストロブマツ、チョウセンゴヨウなどがあります。ここには伏流水を溜めた「金太郎の池」という池がつくられており、カモ類も1年

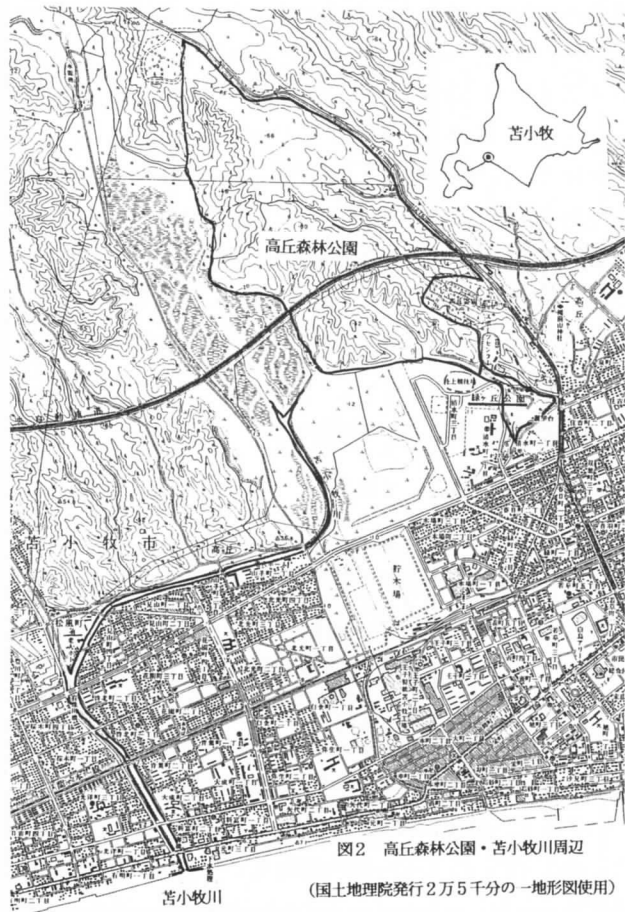


図2 高丘森林公園・苦小牧川周辺
(国土地理院発行2万5千分の一地形図使用)

中見られます。観察は四季を通して主として午前中に行い、公園内の散策路を歩き、姿や鳴き声で鳥種を確認しました。

(2) 観察結果

3ケ年に確認した種類は31科84種です。表1のB欄に○がつけられています。

カラ類やキツツキ類はいつも見られますが林縁部で観察していると9月下旬には10~30羽のカケスの群れが、また10月下旬には50~100羽のヒヨドリの群れが次々と西方向に移動して行くのを見ることができます。



セイタカシギ 2002年4月 筆者撮影

ウミウは台風で海が荒れた時にきたものでオオバンは渡りの途中に寄ったものと思われます。マガモは毎年数つがい繁殖しています。冬季池がほとんど結氷してもわずかに開いたところに、日中マガモとオナガガモ合わせて100羽くらいが見られます。

C. 苦小牧川

(1) 観察地域の概要と観察期間・方法

苦小牧川は源流は樽前山にありますが、市街地を流れる川で、川幅は広い所で50m、狭い所で2mくらいあります。河川敷にはスゲ類やキタヨシ、ヤナギもまばらに生えています。なお親水空間として河川改修された所もあり、河川敷には散策路やパークゴルフ場がつくられています。

観察区域は河口から約5kmまでとし、年間を通して川岸や堤防を歩きながら河道・河川敷・周辺の湿原・草原で確認した鳥種を記録しました。

(2) 観察結果

確認した種類は35科113種です。表1のC欄に○がつけられています。

市街地を流れる川とその周辺にこれほど多くの種類が見られるとは予想していませんでした。113種を、藤巻裕蔵氏の「北海道鳥類目録 改定2版(2000)」を参考に、苦小牧地方の実態を考慮して移動習性により分けてみると、留鳥24.8%、夏鳥45.1%、冬鳥17.7%、旅鳥12.4%となり、全体の75%は渡り鳥ということになります。

表1 苫小牧地方野鳥リスト (A: 樽前山 B: 高丘森林公園・緑ヶ丘公園 C: 苫小牧川)

	A	B	C		A	B	C		A	B	C
カイツブリ科				カモメ科				ツグミ科 (続き)			
カイツブリ			○	ユリカモメ			○	ツグミ	○	○	○
ウ科				セグロカモメ		○	○	ウグイス科			
ウミウ		○	○	オオセグロカモメ		○	○	ヤブサメ		○	
サギ科				カモメ			○	ウグイス	○	○	○
アマサギ			○	ウミネコ			○	エゾセンニユウ		○	○
ダイサギ			○	ハト科				シマセンニユウ			○
コサギ			○	キジバト	○	○	○	コヨシキリ			○
アオサギ		○	○	アオバト	○	○	○	オオヨシキリ			○
カモ科				カッコウ科				エゾムシクイ	○	○	
ヒシクイ			○	ジュウイチ	○			センダイムシクイ		○	○
オオハクチョウ		○	○	カッコウ			○	クキイタダキ		○	○
コハクチョウ			○	ツツドリ	○	○	○	ヒタキ科			
オシドリ		○		ホトトギス	○			キビタキ		○	○
マガモ		○	○	フクロウ科				オオルリ		○	○
カルガモ		○	○	コミミズク			○	コサメビタキ	○	○	○
コガモ		○	○	ヨタカ科				エナガ科			
ヨシガモ			○	ヨタカ	○			エナガ	○	○	○
オカヨシガモ			○	アマツバメ科				シジュウカラ科			
ヒドリガモ		○	○	ハリオアマツバメ	○			ハシブトガラ	○	○	○
アメリカヒドリ			○	アマツバメ	○			ヒガラ	○	○	○
オナガガモ		○	○	カワセミ科				ヤマガラ	○	○	○
ハシビロガモ		○	○	カワセミ			○	シジュウカラ	○	○	○
ホシハジロ		○	○	キツツキ科				ゴジュウカラ科			
キンクロハジロ		○	○	アリスイ			○	ゴジュウカラ	○	○	○
スズガモ			○	ヤマゲラ	○	○		キバシリ科			
クロガモ			○	クマゲラ	○	○		キバシリ		○	
シノリガモ			○	アカゲラ	○	○	○	メジロ科			
ホオジロガモ		○	○	オオアカゲラ	○	○		メジロ		○	○
ミコアイサ		○	○	コゲラ	○			ホオジロ科			
ウミアイサ			○	ヒバリ科				ホオジロ	○	○	○
カワアイサ			○	ヒバリ	○	○	○	ホオアカ			○
タカ科				ツバメ科				カシラダカ	○	○	○
トビ	○	○	○	ショウドウツバメ	○		○	ミヤマホオジロ	○	○	○
オジロワシ			○	ツバメ			○	アオジ	○	○	○
オオタカ	○		○	コシアカツバメ			○	クロジ		○	
ハイタカ	○	○	○	イワツバメ	○		○	オオジュリン			○
ケアシノスリ	○		○	セキレイ科				アトリ科			
ノスリ	○	○	○	キセキレイ	○	○	○	アトリ	○	○	○
クマタカ	○		○	ハクセキレイ	○	○	○	カワラヒワ	○	○	○
チュウヒ			○	セグロセキレイ	○	○	○	マヒワ	○	○	○
ハヤブサ科				ビンズイ	○	○	○	ベニヒワ	○	○	○
ハヤブサ	○		○	ヒヨドリ科				ハギマシコ	○		○
チゴハヤブサ	○		○	ヒヨドリ	○	○	○	オオマシコ		○	○
チョウゲンボウ	○		○	モズ科				イスカ			○
ライチョウ科				モズ	○	○	○	ベニマシコ	○	○	○
エゾライチョウ	○	○		レンジャク科				ウソ	○	○	○
キジ科				キレンジャク			○	イカル	○	○	○
キジ (コウライキジ)		○	○	ミソサザイ科				シメ	○	○	○
クイナ科				ミソサザイ	○	○	○	ハタオリドリ科			
バン			○	イワヒバリ科				ニューナイスズメ		○	
オオバン		○	○	カヤクグリ	○			スズメ		○	○
シギ科				ツグミ科				ムクドリ科			
キョウジョシギ			○	コルリ	○			コムクドリ		○	
ツルシギ			○	ルリビタキ	○	○		ムクドリ		○	○
キアシシギ			○	ジョウビタキ			○	カラス科			
イソシギ		○	○	ノビタキ	○	○	○	カケス	○	○	○
チュウシャクシギ			○	イソヒヨドリ			○	カササギ			○
ヤマシギ	○	○		トラツグミ	○	○		ホシガラス	○		
オオジシギ		○	○	クロツグミ	○	○	○	ハシボソガラス	○	○	○
セイタカシギ科				アカハラ	○	○	○	ハシブトガラス	○	○	○
セイタカシギ			○	マミチャジナイ	○						

カイツブリは繁殖し冬季も見られます。アマサギは2001年5月に、ダイサギは2002年6月と2003年7月に、コサギは2001年11月と2003年5月に飛来しました。カモ科20種の中で繁殖しているのはマガモだけです。クロガモとシノリガモは河口部ですが、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、そしてアイサ3種など、潜水性のカモが冬季の川で見られます。オオハクチョウは毎年20~30羽見られます。オオヨシガモは2004年3月に目撃されました。バンは毎年繁殖していて、2003年は2回ヒナをかせました。オオバンは繁殖はしていませんが、2003年と2004年は越冬しました。セイタカシギは2002年4月に1羽

が2週間ほど滞在しました。コシアカツバメは2002年11月に、ジョウビタキは2003年2月と5月、2004年3月に飛来しました。カササギはどこから飛来したかは不明ですが、ここ数年苫小牧地域で繁殖して年中見られ、市街地ではそれほど珍しい鳥ではなくなっています。

なお、この川には羽が傷つき飛べなくなったオオハクチョウが6羽、数年前から住み着いています。渡りの季節、ハクチョウの編隊が上空を鳴きながら飛ぶと、首を伸ばしそれに呼応する姿を見ることがあります。

〒053-0831 苫小牧市豊川町3-2-9

クイナの名の由来

武 沢 和 義

8月8日、本会副会長の戸津さん達に誘われて、西岡水源地にクイナを見にいった。展望台近くの本道で2羽、そこから見える針葉樹林の方に向かって少し歩いたところで1羽のクイナの成鳥が観察できた。後者の場合には鳴き声を聞くこともできた。私には口で表現出来るような声として聞き取れなかったが、「クイ、クイ」と聞こえたという人もいた。それでクイナという名が付いたのかな、という話になった。

帰ってから手元にあった本を調べてみた。クイナの語源を考える前に、どの鳥をもってクイナと呼ぶのかをはっきりさせておかねばならない。「くいな」は漢字で水鶏と書くが、これはヒクイナのことである。また「くいな」といえば、標準和名が決まる以前は、ヒクイナを指し、和歌や俳句に和名クイナが登場することはない。一般の鳥の和名は本州を基準にして定められている。クイナは、北海道で夏鳥として繁殖し、本州に冬鳥として渡る。そして、めったに鳴かないが、姿はよく見かけられていて、冬クイナと

呼ばれていた。それに対してヒクイナは夏鳥として日本全土に渡ってきて繁殖する。クイナにしろ、ヒクイナにしろ、よく鳴くのは繁殖期である。古来、日本人が鳥に反応してきたのは、主として、その鳴き声であった。ヒクイナは「戸を叩く」音として聞きなされてきた。その例は既に「源氏物語」にみられ、「くひなのうち叩きたるは、誰が門をさして、とあはれに覚ゆ」と書かれている。国語辞典「大言海」は、鳴きはじめに夏鳥としてクヒクヒと聞こえるので、これに鳴き声を示す語尾のナが付いて、クイナとなったと説明している。この説は冒頭に書いた話と内容は一致し、クイナの名の由来が判ったようにも感じられるが、古来からの「くいな」を説明できていない。その他に餌のカエルを食いながら鳴くからというクイナキ（食鳴）の義、クヒア（食蛙）の義、などがある。

〒064-0804 札幌市中央区南4条西26丁目

鳥好きの文学散歩 4

小樽の文学碑

高 橋 良 直

今回の「散歩」では書物の世界を離れ、文学碑を訪ねてみよう。小樽にはたくさんの文学碑があるが、小樽一札幌間では野鳥に縁のある文学碑を3基見ることができる。

まずは張碓にあるアオバトの句碑。張碓の集落のはずれ、海を見下ろす崖のそばに数台の駐車スペースのある空き地があり、小ぶりの句碑がその空き地の脇に置かれている。碑に「青鳩や／礁（いくり）つづきに小樽港」とある。青鳩は夏の季語だろうか。張碓の磯に降り立ってみると、小樽港と祝津・高島岬が間近に望まれる。その磯の上を旋回

し、岩礁に舞い降りるアオバトの美しさは例えようもない。句の作者は勝又木風雨（もくふうう）、大正3年千葉県生まれの人という。碑は昭和62年に建立されているが、アオバトが小樽市の「市の鳥」に制定されたのが昭和61年であるから、それを記念して作られたものであろう。

張碓から小樽方向へ国道を4kmほど進むと、左手の札幌自動車道の橋脚の下に朝里不動尊があり、そのそばに高さ3mほどの並木凡平の歌碑が海に向かって立っている。並木凡平は本名篠原三郎、明治24年札幌生まれ、昭和16年没。



アオバトの句碑

小樽新聞社などで記者生活をおくるかたわら口語短歌の普及につとめた。碑は門下生などによって昭和13年に建立さ

れたものである。「廃船のマストに／けふも浜がらす／鳴いて日暮れる張碓の浜」と刻まれている。マストのある廃船というのは現在では見られないが、カラスが鳴く夕暮れの張碓の浜の風情は今日も変わらないものであろう。情景が目浮かぶ分かりやすい短歌である。

最後に朝里川温泉にある千葉仁の句碑。朝里ダムに至る道道のホテル武蔵亭のあたりに左側の林に入る遊歩道があり、3分ほど歩くと静かな木立の中にひっそりと二つの句碑が置かれている。その一つに「囀(さえずり)に／山影動き／初(そ)めにけり」とある。俳句の観賞は不得手だが、早朝林の中で鳥のさえずりに耳を傾けている情景が思いうかんでくる。このあたりの林は初夏にはアオジ、ウグイス、ヤブサメ、クロツグミなどのさえずりがにぎやかで、この句碑の設置場所としていかにもふさわしいと思われる。千葉仁は大正7年の生まれ、戦後小樽に住んだ俳人で、碑の建立は昭和57年とある。

ときにこのような文学碑を訪ねてみるのもまた一興というものであろう。(『小樽市史』第10巻を参考にしました。)

〒006-0851 札幌市手稲区星置1条6丁目8-1

クロツラヘラサギ道内移動

広 報 部

同一個体とみなされるクロツラヘラサギが、今年(2004年)6月前半に鶴川町鶴川河口、浦河町日高幌別川河口、ウトナイ湖の順で観察された。クロツラヘラサギは世界全体で500~800羽しかいないとされるほどの少ない鳥で、国際自然保護連合により絶滅危惧種に指定されている。主な繁殖地は朝鮮半島北部で、越冬地は台湾周辺である。日本には越冬のために九州にはほぼ定期的に少数が渡来するが、北海道で観察されるのは極めて希である。

今回、最初に確認されたのは鶴川町鶴川河口で、6月4日の午前10時頃のことである。右岸河口近くの人工干潟で干潟生物などを調査していた北大水産学部学生および地元の門村徳男さんが、上空を河口方面に飛ぶダイサギのような白い鳥を見た。もしかして河口天然干潟に降りたのではと、門村さんが見に行ったところ、対岸(左岸)に近い川辺に降りていて、それがクロツラヘラサギであることが確認された。以後9日までの6日間、左岸天然干潟、左岸人工池、人工干潟などを行き来し、時にはアオサギと一緒に、採餌や休息をしていたとのことである。この間、知らせを受けた探鳥家などの目を楽しませ、また写真撮影されることとなった(表紙写真参照)。

浦河町日高幌別川河口で発見されたのは6月11日である。午後4時30分頃、浦河探鳥クラブの代表の春田清美さんが

発見し、地元で写真店を経営する川村牧雄さんにより写真撮影された(6月21日付け北海道新聞)。春田さんたちは暗くなる午後7時頃まで観察を続けたが、この間、オオセグロカモメなどととも浅瀬で行動を続けた。翌朝、同所に行ったときにはもういなかったとのことである。

ウトナイ湖で確認されたのは6月13日である。学生バードソンに参加していた日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリの川崎慎二さんが、午前8時すぎに湖の南西部奥の方にいるのを発見した。当日は野鳥愛護会の植苗ウトナイ探



2004年6月11日 日高幌別川河口 川村牧雄さん撮影

探鳥会参加者の多くが、探鳥会終了後の午後1時頃に湖畔側に向かい、浅瀬で盛んに採餌するクロツラヘラサギを見ることができた。川崎さんの観察によると、最後に確認したのは15日で、ウトナイ湖には3日間の滞在となった。

3ヶ所で見られた個体はいずれも風切先端が黒く、また嘴前半部の黒味が薄く、褐色がかったことが確認されており、これらの特徴から、幼鳥であることが明らかである。各地での観察日を考慮したならば、同一個体が鶴川河口、浦河、ウトナイ湖の順に移動したとみなして構わないだろう。

詳細不明のものも含めて、何らかの形で残されている北海道での観察例を以下にあげる。

- 1) 1984年8月、コムケ湖(大館・大塚・藤田 1986)。この記録は種名記載だけで詳細は不明。
- 2) 1987年3月30、31日、4月5～7日、檜山郡上ノ国町、大安在川河口近くの中洲および天の川(北海道新聞1987年4月4日、笹浪 1988、三浦 1988)。なお、三浦(1988)にはこれが北海道初記録と書かれている。
- 3) 1992年6月15日、ウトナイ湖(加藤 1996)。加藤(1996)によればウトナイ湖で同年8月にも見られたことになっているが、詳細は不明。
- 4) 1999年6月20日、ウトナイ湖。日本野鳥の会バードソンで見られたとのことであるが(山田 1999)、具体的記録は発表されていないと思われる。
- 5) 1999年7月3日、江別市角山石狩川河川敷(山田 1999)。
- 6) 2000年4月24日、稚内市声問大沼(北海道新聞2000年4月26日)。
- 7) 年不明6月、網走市。野鳥図鑑に写真掲載(河井・川崎・島田 2003)。

以上のように、これまでにおける北海道でのクロツラヘラサギの観察例は十指に満たない。滞在期間が長かったものとしては1987年の上ノ国町での少なくとも9日間があげられるが、その期間内での移動はそれほど大きくなかった

ものとみなされる。今回の例では少なくとも12日間の北海道滞在で、しかも比較的大きな移動を伴っていた。これを単に迷行とするかどうかは難しいところである。若い個体が適当な繁殖地を求めて比較的広い範囲を飛び回るのは十分にあり得ることであり、たまたま北海道まで来てしまったと考えられないわけでもない。このような時期における本州北部などでの出現状況などを調べ、総合的に判断する必要があるだろう。

なお、6月14日、ウトナイ湖の川崎さんのところに、クロツラヘラサギがいる場所が写真を撮るには遠いために、石を投げて動かそうとしていた人がいたという報が寄せられたとのことである。野鳥写真を撮って楽しむ人たちのほとんどすべては真に野鳥を愛する気持の持ち主であろう。石を投げてまでも「いい写真」を撮りたいという人は、残念ながら野鳥愛護の心が欠如していると考えざるを得ない。写真を撮ることはもちろん、ただ見るだけでも、時と場合によっては野鳥に何らかのストレスを与えているかもしれない。野鳥たちに「楽しませてもらっている」という気持を持って、暖かく接したいものである。

[資料]

- 大館和広・大塚恭司・藤田 司、1986。コムケ湖の野鳥。ワイルドライフ・レポート 4:57-68。
- 笹浪甲衛、1988。クロツラヘラサギ(表紙写真)。北海道野鳥だより 72:1。
- 三浦二郎、1988。クロツラヘラサギの本道初記録について。北海道野鳥だより 72:4。
- 加藤喜七、1966。ウトナイ湖サンクチュアリ野鳥情報ノート15年のまとめ。
- 山田良造、1999。クロツラヘラサギ観察記。北海道野鳥だより 117:5。
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英、2003。北海道野鳥図鑑。亜瑠西社。札幌。



藤の沢に参加して

2004. 5. 2

勝見 真知子

5月2日、春の藤の沢の参加は2回目ですが、前回は案内してもらいすぐについたが、今回はかなり奥まで行って引き返しやっと間に合った。

このコースは斜度もあり、いい汗かきました。

野鳥も私にとってはめずらしいオオルリ、ルリビタキを

みることが出来たのはうれしかった。

前は草や花の見分け方を教わったのが印象に残り、なるほどと感心したことを思い出した。肝心の中味は忘れていた。今回もいろいろ教えてもらった。

鳥合わせも終わり、草地に腰を下ろし小学生の遠足のようになり、弁当を食べ、各々話の花が咲き、鳥の声と花と木と風と、仲間と幸せな時間を過ごすことができました。

夫婦ともに自由人であっても油断して風邪をひいたり、やば用で不参加だったり年に数回しか参加してませんが、縁あって仲間に入れてもらったので長く続けたいと思っています。

【記録された鳥】トビ、マガモ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリ

ビタキ、トラツグミ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、オオルリ、ハシブトガラ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 37種

【参加者】氏家正毅、岡田幹夫、今泉秀吉、岩崎孝博、板田孝弘、後藤義民、小堀煌治、勝見輝夫・真知子、亀井厚子、亀田節子、蒲澤鉄太郎、小西美美枝、河野美智子、島田芳郎・陽子、品川睦生、川東保憲・知子、佐々木裕、白澤昌彦・瑠美子、高栗 勇、忠地和子、戸津高保、高嶋昭英・則子、樋口孝城、辺見敦子、村上茂夫、山本昌子、山口和夫、山田良造 以上 33名

【担当幹事】小堀煌治、戸津高保

探鳥会初体験

2004. 5. 3 守下憲治

融雪の頃ともなると庭先の給餌台（パンくず）、バスケット（豚の脂身）、ペットボトル（ヒマワリの種子）に餌を求めて来る野鳥たちの種類も数もめっきり減ってくる。約2週間の旅行から帰宅してみると餌はほとんど食べつくされていた。ただシメだけが物欲しそうに独特の顔付きでこちらを見ているようにも思えた。自宅の周辺にある高い雑木林からは甲高い、一方、低木やヤブからは低いさえずりの音が聞かれる頃となった。朝、何げなく自宅西側の土手を眺めていると、スズメに似た野鳥が小刻みに動いているのに気づいた。全体像と頭部・顔などをよく記憶に止め、デジカメを取りに行き、戻ってきた時にはその姿は無かった。図鑑をめくってみたが、絞り込み「これだ」と確定する自信はなかった。近くの北広島駅に行った時、エリフィン公園の市サービスセンターの入口に「北海道ウォッチングガイド」のパンフレットを目にした。これにより本会のことを知った。探鳥会の当日、8時20分ごろには集合場所である野幌森林の大沢に着き、周辺のカツラ・ヤチダモ・ハリギリ、ニレ等の古木に感動しながらぶらついた。歩道上に先日、図鑑で絞りこめなかった野鳥がいるのではないかと本日の会に期待をもった。

責任者の方に参加したい事を告げると、こころよく承諾していただいた。定刻には老若男女約40名(?)の集団となった。天候は曇りのち小雨となり、運よく傘と防寒衣を用意していたので助かった。会員の皆様に気軽に話しかけられる楽しい雰囲気であった。例えば、「姿・形は見えますが、フィーフィーとさえずっている鳥は何ですか」と。恥も外聞もない質問にすぐ「ゴジュウカラ」ですとの返事が直ぐ返って来た。この質問からもお察しの通り、読者は筆者が全くの初心者であることをご理解いただけたと思

ます。ゴジュウカラは冬期にヒマワリの種子の詰まったペットボトルに来る常連の一種である。ガラスの窓を通してよく観察できる。今はどの木のこずえに止まり鳴いているのかさっぱりである。さて、しばらくすると集団の20~30mの前方の歩道上に大望の野鳥が数羽現われた。何か小さい種子をついばんでいるみたいだ。全員の双眼鏡の焦点が合わされ、「アオジ」との判定であった。

これは前記の通り、何日か頭の中に暖めてもいたし、集合直前に確認したものである。私はこれだけで今日の収穫は十分であった。「百聞は一見に如かず」とはこのことであろう。実物をよく見て、皆様から種名を教えていただくこと。これこそ私の望み。参加の理由。

最後に締め括りとして、自然ふれあい交流館において本日の野鳥の確認が行なわれました。23種(?) 私が知覚できたのはほんの一握りでした。私の弱点をさらしますと、(1)標的(野鳥)をすばやく双眼鏡の視野に入れることができないこと (2)独特のさえずりから種名を判断できないこと。常に野鳥に関心をもって訓練し弱点を無くすよう、皆様に一步でも近づきたいと思っていますのでどうぞお導きの程、よろしく願いいたします。

なお、アオジにつきまして、日頃、気づかなかっただけで自宅の付近で見かけています。見えなかったものが見えてくること。気付かなかったことに気付くこと。この探鳥会で体得した私の貴重な初体験となりました。

この機会に感じた事を付しておきます。

1. 会員には樹木、草花に大変詳しい方がいて、いろいろ教えていただきました。例えば、林床に目立つバイケイソウのこと。エゾユズリハとツルシキミの識別。シウリザクラの事など植物の観察もできました。

2. 盗掘らしき行為者について

皆様も目撃の通り、ミズバショウ群落において、2人の女性が盗掘ともいえる疑わしい行為をしていました。何人も会員が「止めて下さい」との注意も、そのような行為は“違反ですよ”との呼びかけにもかかわらず、馬耳東風の如き態度。察するに許可を得ての行為かも。森林公園について無知なのか、知っての行為なのか。不法行為者に対して、野鳥を愛する人々の態度、接し方はどうあるべきであろうか。法的武装も権限もない丸裸の私は情けなく思う。所轄の機関に意見することは簡単であるが、一般市民に何ができるのか。

勇気ある実践の必要性を痛感した次第です。

3. 園内の伐採について

歩道沿いにやたらと天然のトドマツが伐採されている箇所がある。本当にその必要があるのだろうか。保存的自然保護の色合いを強くしたらいかがであろうか。その樹木が菌類等に侵されていても、カミキリムシの幼虫などはこれらの樹木に依存している。そうして幼虫は、キツツキ類の重

要な餌となっている。キツツキ類にとっては大切な餌場である。

4. 池に貯水しない理由があるのか？

平地に広大な面積の森林が残っている理由は、森林の周辺には水田があり、そのために貯水の必要から池が作られたと伝え聞く。満々と貯水された池は美しく生気を感じる。水鳥も来てくれる。しかし、現状は、水が無く、一部が陸地に遷移している。水田の減反により貯水の必要がなくなったのだろうか。しかしながら、水鳥達も多く住み、豊かな生物の見られる森林公園にすべく管理者に求めたい。失礼で無知は自覚の上で。

〒061-1143 北広島市南町4丁目6-4

【記録された鳥】トビ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、ニュウナイスズメ、ハシボソガラス 以上 23種

【参加者】阿部 耐、阿部光子、氏家正毅、岡田幹夫、川村宣子、嘉藤陸雄、後藤義民、小山久一、沢田 哲、沢田浩一、品川睦生、高橋きよ子、高橋良直、戸津高保・以知子、長尾由美子、中正憲・弘子、浪田良三、成澤里美、菝沢ちよ、畑 正輔、原 美保、原田功雄、藤澤 豊・由美子・春信、辺見敦子、山本克博、山本和昭、守下憲治、渡辺幸子 以上 32名

【担当幹事】後藤義民、成澤里美

千歳川早朝探鳥会に参加して

2004. 5. 9 佐々木 玲子

職場で一緒の五十嵐さんの誘いで家族3人で、はじめてこの会に参加させていただきました。7日でちょうど2歳半の娘にとって鳥を見に行くことは初めての体験。どうなるかと思いましたが、彼女なりに自然を満喫。ほとんど自分で歩いてくれ、私たちもちょっと安心。また次回参加できるかなと思っています。御迷惑をかけるかもしれませんがよろしくお願いします。

さて、早朝探鳥会ということで現地に5時集合でしたが、道に迷いどんどん支笏湖の方へ……。ユーターンをしてなんとか5時ちょっとすぎに目的地に着きいざ出発。曇ってはいるものの風はなく、木の葉も札幌よりまだ出ていず、絶好の探鳥日和。歩きはじめてすぐカワセミ、オシドリがいるとのことで、あわてて双眼鏡をのぞきました。久しぶり（子どもがうまれてから実ははじめて！）の双眼鏡でなかなかピントをあわせられないでいると、カワセミの方は逃してしまい、ガッカリ。それでもオシドリの優雅な姿で気を取りなおし先へと進みました。夫とは子どもがまだいないとき、郊外に出かけるときには必ず双眼鏡を車に積

んでいたのですが素人の2人、図鑑をみながら「あれかな？、これかな？」という感じでした。しかし今回は先生がいっぱい。「入ってますよ～」の声に便乗して望遠鏡をのぞかせていただき、さらに見た鳥の名前や特徴も教えていただき、とても充実したものでした。カラ類、ベニマシコやキバシリなど小さい鳥はすばしこくて“なんだろう”と思っているうちにいなくなってしまうのが常でしたが、今回はあれが〇〇だとわかり、見ていても余裕?!があるせいか楽しみながら見れました。（娘が横にいても!!）私が見たかったオオルリ、ヤマセミはたっぷり見ることができ（キビタキは残念ながら見れず）満足、満足。夫も「ヤマセミが見たい！」と言って一緒に参加してくれたのですが念願叶って満足。カワセミを逃したのは残念でしたが、次回のお楽しみに。最後の確認では48種の鳥があげられていましたが、私たちは残念ながら半分くらいしかわかりませんでした。しかし4時間という短い時間ではありましたが今までで一番鳥を見れたという充実感がありました。勝手がわからず、にぎやかに参加させていただきました。ありがとうございました。

【記録された鳥】アオサギ、トビ、オシドリ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、キンクロハジロ、カワアイサ、エゾライチョウ、キジバト、ツツドリ、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、コルリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 48種

【参加者】石田典也、五十嵐辰美・加代子、板田孝弘、稲村成一、岩崎孝博、氏家正毅、太田清美、岡 秀子、岡田幹夫、柿崎 照、上口建作、勝俣征也・由美子、蒲澤鉄太郎、亀田節子、川東保憲・知子、川村宣子、木村与吉、栗林宏三、小山久一、佐々木英之・玲子、品川睦生、島田芳郎・陽子、白澤昌彦・瑠美子、高栗 勇、高橋弥生、高橋利道、高橋良直、忠地和子、道場 優・信子、戸津高保・以知子、登野泰信、中正憲・弘子、成澤里美、畑 正輔、橋爪陽子、広木朋子、松原寛直・敏子、宮崎嵩司、山形裕規、山口和夫、山本克博、山本和昭、吉田慶子、鷲田善幸 以上 54名

【担当幹事】栗林宏三、戸津高保

野幌森林公園探鳥会

2004. 5. 16

【記録された鳥】アオサギ、キジバト、アオバト、ツツド

リ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コルリ、クログミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、イカル、ニュウナイスズメ、スズメ、カケス、ハシブトガラス 以上 32種

【参加者】阿部光子、岡田幹夫、後藤義民、小西美美枝、高橋利道、戸津高保、濱野由美子、原 美保、原田正行、原田恵美、中正憲信、松原寛直・敏子、吉田慶子、横山加奈子、山口和夫、山本和昭 以上 17名

【担当幹事】中正憲信、松原寛直

鶴川河口の探鳥会への初参加

2004. 5. 23 鈴木 大和・叡子

平成16年5月23日(日)、家内と久しぶりの汽車の旅を楽しみながら探鳥会に参加してみようと思い立ち、駅弁を買って特急北斗にのりこみました。私は体の調子がよくないとか出張が無い限り、毎朝円山公園を散歩したあと北海道神宮の石段下で行われているラジオ体操に参加しています。その折沢山の小鳥のさえずりを聞き、姿をみる機会もあるのですが雀と鳥以外はさっぱり聞き分け、見分けができないでいました。手元にある小さな図鑑をみても、そのときにはもう小鳥の残像はわたしの脳から消え去りハテどれだったかなで終わってしまう。そんな自分にいつも苛立ちを、すぐに飛び立ってしまう鳥たちには腹立ちを感じていました。折りしもいただいた会の探鳥予定表をみて勉強させていただこうと急遽仕度をして家をでたのでした。晴れ渡った空とお日様に今日は暖かいぞと確信をして鶴川駅に降り立ったところ、うす曇で風が強くおまけに寒くてジッとしておられません。日曜の朝8時半といえば先ずどんな店も開いていないのが普通ですが、ラッキーノありました。近所の方から頼まれたとかで小さなスポーツ用品店が開いてました。そこで2人分の安売り中の上下ヤッケを1,900円あまりで求め幸い寒さはしのげました。集合場所である笹の駅前広場にポーッとふたりで待って居りましたが、会のそれらしき方はどなたも居られず日を間違えたかなと思って居りましたところ、ひと目“幹事”の貫禄風采をされた方(お名前分らず失礼します)がお2人居られ、声をかけたところそのとうりでしたので車にのせていただき皆さんと合流することが出来ました。30名位の方々と鶴川河口へ向いながら野原や干潟や遠くに見える森の上をとぶ鳥たちの姿を、30倍以上はある大型望遠鏡で鮮明に見せていただき感激しました。見ている傍でいろいろ講釈を下さる方が居られ、とても分かりやすく興味深くみることが出来ました。持参の7-8倍の双眼鏡はどうも鳥の姿と方向を確認するくらいのもの様でした。大型望遠鏡を

肩に担いでいる方々の後から付いていきながら思いました。一見武器を担いでいるようにも見え、この地がイラクだったらたちまち米軍の砲弾が飛んでくるかもなどとあらぬ事を想いながら歩いておりました。この平和な日本に生まれ住んでいることを幸せに思います。私の万歩計は1万歩以上を指しておりました。最後に一同に会し鳥合わせをしたところ26種の鳥たちを観察したことを知りました。私はその3分の1も見られたでしょうか。今後都合のつく時は会に参加して3分の3に限りなく近づけるよう、名人達の後を追っかけ望遠鏡をのぞき、お話を伺いたいものと思っております。有難うございました。

〒064-0952 札幌市中央区宮の森2条9丁目6-22

【記録された鳥】カラシラサギ、アオサギ、トビ、オジロワシ、チュウビ、マガモ、カルガモ、クロガモ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

以上 26種

【参加者】赤沼礼子、稲村成一、板田孝弘、岩崎孝博、氏家正毅、荻野裕子、加藤文夫、加藤千春、亀田節子、川東保憲、岸谷恵美子、小西美美枝、佐藤幸典、島田芳郎・陽子、白鳥洋子、鈴木大和・叡子、高橋良直、武田由里子・雄大、忠地知子、徳田恵美、戸津高保、中正憲信、畑 正輔、原 美保、原 芳明、樋口孝城、松原寛直・敏子、山口和夫、山本和昭 以上 33名

【担当幹事】佐藤幸典、樋口孝城

東米里の探鳥会に参加して

2004. 5. 30 竹内 辰浩

5月30日に行われた愛護会の探鳥会に初めて参加した。この東米里へはバードウォッチングを始めて間もない昨年の今ごろ、別の機会で見に来たことがあった。そのときもたくさんの野鳥がいたが、見つけるのに苦労したのを見つけても名前がわからずに終わってしまった。

探鳥会には私のような者も少しはいるかと思っていましたがコンパクトタイプの双眼鏡を持ち歩くようなビギナーは私だけのようなだった。始まる前は付いて行けるか少し心配だったが幹事の方をはじめ周りの方に親切にしてくださいました。フィールドスコープで野鳥を見せてくれたり、野鳥の居る場所を教えてくれたり、見つけた野鳥の名前がわからない旨を言うと教えてくれたりと感謝しています。

探鳥会では観察ポイントの広場に建物が建ってしまい残念だったが、他の場所で倉庫の穴に巣を作っていたムクドリや託卵しようとして親鳥に見つかり追い払われたカッコウなどを観察することができた。ほかにもノビタキ、アオ

サギなどなどたくさんの野鳥を見ることが出来て非常に楽しい時間を過ごせた。

残念というか申し訳なかったのが河川敷でコヨシキリの居る場所を幹事の方に教えてもらったのに見つけれなかったことです。あとで双眼鏡のピントを再確認したところ言われたとおりピントが合っていなかった。調節は大切だと実感したと共に何度も教えていただいたのに申し訳ないと思った。まだ見分けがつかない、分からない野鳥も多く、その面からもまだまだ勉強不足を実感した。こんなビギナーですが機会を見つけて今後も参加させてもらいたいと思っています。その時は宜しくお願いします。

最後となりましたが、幹事の方や他の参加者には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(乱筆、乱文をお許しください。)

〒003-0801 札幌市白石区菊水1条1丁目3-46-406

【記録された鳥】アオサギ、トビ、ハイタカ、マガモ、コウライキジ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、ウグイス、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

以上 28種

【参加者】五十嵐、板田孝弘、今村三枝子、氏家正毅、岡田幹夫、奥山正樹、加藤千春、栗林宏三、小堀煌治、小西美美枝、佐々木英之・玲子・七菜、島田芳郎・陽子、高橋利道、竹内辰浩、樋口孝城、広木朋子、堀さち子、松原寛直・敏子、三浦とも子、村田静穂、安 真一郎、柳川 巖、山口和夫、渡辺吉宗・好子、渡辺喜久雄 以上 29名

【担当幹事】渡辺喜久雄、栗林宏三

春国岱・野付半島探鳥会の旅

2004. 6.4~6 白鳥恵子

今年度から愛護会に入会させて頂き、今回の宿泊探鳥会が初めての参加です。野鳥だより135号の案内文に載っていた“アカアシシギやミヤコドリが100%に近い確率で見られるはず…”という魅力的な文面にひかれて期待に胸を弾ませて参加しました。看板に偽りはなく、それどころかその他にタンチョウ、クロハラアジサシ、カッコウ、ベニマシコ等々名前を羅列するだけで原稿用紙が埋まってしまうような程の鳥たちに出会えた旅でした。

6月4日、午後10時に札幌を出発して、バスは翌朝午前6時半頃風連湖を眼下に望む丘にたつ「道の駅スワン44」に到着。朝食前後の観察で幸運にもヒナと連れだって歩くタンチョウのつがいに出会い、生後10ヶ月位という余りにも可愛いヒナの姿に胸が熱くなりました。どうぞ無事に成長して…と祈りつつ春国岱に向かいました。

春国岱でのメインは何といってもミヤコドリ。待っていてくれました。魅力的な姿をたっぷりと私たちに披露して感動を与えてくれました。いつの日か、再びお会い出来るのでしょうか？という思いで一札して春国岱散策へ。

そして、野付半島で出迎えてくれたのがアカアシシギでした。「野付半島原生花園」と書かれた趣のある看板の上に微動だにせず佇んでいる姿には45名の観客をくぎ付けにする不思議な存在感があり、ただただ見とれるばかりでした。アカアシシギ様、あなたはまさしく本物のスターです。そんなスターに会ったざわめきのなか、クロハラアジサシに違いない…という声と共に皆の視線は半島奥へと移動しました。出会った驚きよりも、見つけた方への尊敬の念の方が勝る程の遠い距離でした。蝶のように飛ぶ姿に目を凝らしました。興奮もさめやらぬま、宿泊地中標津へと向い、翌朝、緑ヶ丘森林公園、丸山公園、開陽台と観察し何度もベニマシコの美しさに見とれたものでした。ん？そういえば、今回の旅は、“赤あるいは紅”シリーズ？。タンチョウの赤、ミヤコドリの、アカアシシギの、そして何とクロハラアジサシの嘴と足も赤でした。ベニマシコの紅も加わり、赤に初まり紅に終わった旅なのでありました。充実という一言に尽きるこの旅をお世話して下さいました幹事の方、そして根室で私達を出迎えて、中標津まで付き合って案内をして下さいました根室支庁の小畑さんの地元を知り尽くした方ならではのご案内のお陰で素晴らしい感動の旅となりましたことを心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

【記録された鳥】

(1) 6月5日 春国岱周辺

アオサギ、トビ、オジロワシ、ハヤブサ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、スズガモ、オオジシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、キジバト、アオバト、カッコウ、ツツドリ、アマツバメ、アリスイ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ノゴマ、ルリビタキ、ノビタキ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キクイタダキ、コサメビタキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、スズメ、コムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ドバト、タンチョウ、ミヤコドリ、ワタリガラス 以上 58種

(2) 6月5日 野付半島

アビ、カイツブリ、アカエリカイツブリ、ダイサギ、アオサギ、トビ、オジロワシ、オシドリ、ヨシガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、ビロードキンクロ、ウミアイサ、キアシシギ、オオジシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、

ハクセキレイ、ノゴマ、ノビタキ、シマセンニュウ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ハシボソガラス、ドバト、タンチョウ、クロハラアジサシ、アカアシシギ、シロエリオオハム、カンムリカイツブリ 以上 37種

(3) 6月6日 中標津森林公園

マガモ、オオジシギ、キジバト、アオバト、カッコウ、ツツドリ、ハリオアマツバメ、アリスイ、アカゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コルリ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、ニュウナイスズメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 以上 39種

【参加者】赤沼礼子、池田みちえ、石橋和子、石井幸子、岩崎孝博、氏家正毅、大町欽子、岡田幹夫、荻野裕子、片山 實、蒲澤鉄太郎・則子、亀井厚子、栗林宏三、小堀煌治、佐藤典子、志田博明・政子、品川睦生、島田芳郎・陽子、清水朋子、白鳥恵子、田中志司子、徳田恵美、徳田和美、戸津高保、中正憲信、橋爪陽子、原 美保、広木朋子、辺見敦子、松原寛直・敏子、道場 優・信子、村上トヨ、山口和夫・雪幸、山田甚一、山本昌子、横山加奈子、西川喜久世、濱野由美子、畑 正輔、(現地参加者)原 芳明 以上 45名

【現地案内】小畑淳毅

【担当幹事】蒲澤鉄太郎、清水朋子、戸津高保、岡田幹夫



宿泊探鳥会

平和の滝 夜の探鳥会

2004. 6.12

【記録された鳥】キジバト、ツツドリ、コノハズク、アリスイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、アオジ、ハシブトガラス

以上 12種

【参加者】岩崎孝博、岡田幹夫、北村 覚、島田芳郎・陽子、高橋良直、中正憲信、樋口孝城、三尾 裕、山田敦彦・三枝子 以上 11名

【担当幹事】岩崎孝博、岡田幹夫

植苗ウトナイ探鳥会

2004. 6.13

【記録された鳥】アオサギ、トビ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、マガモ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、アカゲラ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、クロツグミ、ウグイス、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ニュウナイスズメ、スズメ、コムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 36種

【参加者】石田典也、板田孝弘、今村三枝子、岩崎孝博、氏家正毅、岡田幹夫、蒲澤鉄太郎・則子、川村宣子、後藤義民、小西美美枝、小山久一、品川睦生、島田芳郎・陽子、清水朋子、白田 築、白鳥洋子、高倉千鶴子、高栗 勇、高橋利道、高橋良直、田辺 至、武田由里子・雄大、徳田恵美、戸津高保、中正憲信・弘子、浪田良三・典子、畑正輔、濱野由美子、原 美保、樋口孝城、広木朋子、辺見敦子、堀さち子、村田静穂、松原寛直・敏子、松島雅之、山本昌子、横山加奈子、山本和昭、吉田慶子、山口和夫、鷺田善幸 以上 48名

【担当幹事】樋口孝城

野幌森林公園探鳥会

2004. 6.20

【記録された鳥】アオサギ、トビ、キジバト、アオバト、ツツドリ、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コルリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、ニュウナイスズメ、ハシブトガラス 以上 25種

【参加者】池田はるか、石田典也、岩崎孝博、岡田幹夫、河野美智子、景山かずえ、川村宣子、後藤義民、小西美美枝、紺野文平、齊藤正雄、佐々木充人、品川睦生、菅原陽子、鈴木淑子、鈴木大和、島田芳郎・陽子、高橋良直、玉井規之、富永、戸津高保・以知子、中田純子、早坂泰夫、原 芳明、辺見敦子、堀さち子、松原寛直・敏子、宮崎嵩司、守下憲治、山口和夫 以上 33名

【担当幹事】島田芳郎、早坂泰夫

福 移 探 鳥 会

2004. 7. 4 濱 野 由美子

福移の探鳥会には、今回初めて参加しました。

バス停「福移」から石狩川左岸の堤防河川敷まで歩く途中、側溝の中にトガリネズミを見つけ、通路脇には黄色のコウゾリナ、ビロードモウズイカ、ナスのような花をつけた紫色のオオマルバノホロシが咲いていました。カッコウやウグイスの鳴き声を聞きながら、ムクドリ、コムクドリ、ノビタキ、アオジ、コヨシキリ、ハクセキレイを見ました。

河川敷にはタンポポモドキが一面に咲き、その奥が牧草地になっていて、牧草ロールが点々と転がっており、牧歌的風景の中での探鳥会でした。側の湖畔林はオニシモツケが満開で、オノノヤガラがニョキッと立っており、エゾスズランが蕾をつけていました。天候にも恵まれ、堤防に上がると、烏帽子岳、札幌岳、恵庭岳などの遠くの山並みが見え、登山の思い出や眺望を楽しむことができました。

この日は、まだ卵しか見たことがないウズラには会えませんでした。川面を飛び交うカワセミの親子4羽に会うことができ、とても感激しました。しかも、贅沢にも何回も！また、対岸の木の茂みにも、何回かカワセミが姿を見せてくれました。

これらのカワセミは、輝くようなブルーではなく、かなり黒っぽい色だったので、カワセミらしく見えなかったのですが、最近読んだ本（鳥の雑学辞典）に『本当は青くないカワセミの羽毛』と書いてあったことを思い出し、納得できたのです。その部分を引用します。

『青い色は構造色（幻の色）であって、羽を構成する羽枝の複雑で微細な構造の層に光が反射や屈折して、人の目には青い色として映っている。空の色が青く見えるのと同じ現象で、チンダル現象と呼ばれ、カワセミの翼や背が見る角度によって、時には緑や青に見える』

ところで、私は見ていないのですが、黒いテンを見たという幸運な人がいました。エゾクロテンだったのか、ホンドテンのスステン系統だったのか分かりませんが、剥製しか見たことがなく、ずっと見たいと思っていましたので、非常に残念でした。次回に期待します。

私は偶然入手した「野鳥だより135号」で、「野鳥愛護会」の存在を知り、その後、幸運（後で分かったことですが）にも6月の道東の宿泊探鳥会に参加できる機会を得たことから入会しました。探鳥会の参加経験も浅く、双眼鏡も満足に扱えない初心者ですが、参加する度に皆さんに親切にさせていただいて、初めて見る鳥に感激しています。図鑑を

調べたり、鳥合せをすることで、益々鳥見が楽しくなってきました。

今後とも宜しくお願いします。

【記録された鳥】アオサギ、トビ、オオセグロカモメ、キジバト、カッコウ、カワセミ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、ウグイス、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 29種

【参加者】赤沼礼子、荒木良、石田典也、板田孝弘、稲葉浩正、岩崎孝博、氏家正毅、萩野裕子、岡田幹夫、亀井厚子、亀田節子、加藤千春、蒲澤鉄太郎、北村 覚、栗林宏三、後藤義民、小西美美枝、島田芳郎・陽子、四垂義治、清水朋子、池田亜花李、高嶋則子、高橋良直、田中志司子、忠地和子、徳田恵美、徳田和美、戸津高保、道場 優・信子、橋口順次、畑 正輔、原 美保、濱野由美子、樋口孝城、山形裕規、山口和夫、安 真一郎、柳川 巖、山田 揺、山田千代、山本和昭、横山加奈子、横田通典・キ子、松原寛直・敏子、三浦とも子、宮崎嵩司、村上トヨ

以上 52名

【担当幹事】岩崎孝博、道場 優

野幌森林公園探鳥会

2004. 7. 11

【記録された鳥】アオサギ、トビ、キジバト、アオバト、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、ニュウナイスズメ、カケス、ハシブトガラス 以上 23種

【参加者】今村三枝子、岡田幹夫、亀田 勉・節子、香川稔、後藤義民、小西美美枝、齊藤正雄、中田純子、成澤里美、藤沢由美子・春信、高橋利道、戸津高保、松原寛直・敏子、村上トヨ、山口和夫、山田良造、横山加奈子

以上 20名

【担当幹事】成澤里美、戸津高保



【野幌森林公園】

2004年10月3日(日)、10月17日(日)、
11月7日(日)、12月5日(日)

初秋から晩秋にかけての探鳥会
が続きます。陽光に照らされて、

紅葉が赤や黄色に輝き始めると、夏鳥たちの姿もほとんど

見られなくなり、カラ類やキツキ類などの留鳥主体の観察になります。晩秋の頃から木々の葉も少なくなり、鳥が見やすくなります。そして留鳥を主体にツグミ、マヒワなどの冬鳥が見られる季節に入ります。

集 合=大沢口駐車場入り口 午前9時

交 通=新札幌駅バスターミナル発

夕鉄バス(文京通西行)大沢口入り口下車

JRバス(文京台循環線)文京台南町下車

各徒歩5分

【宮島沼】 2004年10月10日(日)

春は北へ秋は南へ、マガンの渡りは、この宮島沼を中継地として繰り返されています。ユーラシア大陸の北東地帯で繁殖を終えて夏を過ごし、9月下旬頃から渡来が始まり、この時期にピークに達します。秋は中継地での滞在期間が短く、休憩をとると順次、越冬地を目指して飛び立っていきますので、春ほどの大群にはなりません、それでもピークには2~3万羽になります。他にハクチョウ、カイツブリ、カモ類やオオタカ、ハヤブサなどの猛禽類、時にはオグロシギ、ツルシギ、トウネンなどのシギ・チドリ類が観察されることもあります。

集 合=大富会館うら湖畔側 午前10時

交 通=岩見沢駅前バスターミナル発「中央バス月形行」
大富農協前下車 徒歩約10分

【ウトナイ湖】 2004年11月14日

冬の到来が間近く、空気が冷たく澄み渡り、ウトナイの独特な雰囲気を感じられる季節の探鳥会です。岸辺に集まるハクチョウやオナガガモ、湖面を泳ぐヒドリガモ、ヨシガモ、ミコアイサ、カワアイサ、遠くの岸に群れるマガンやヒシクイ、またオジロワシ、オオタカ、ハヤブサなどもよく見かけられます。寒い季節なので防寒には十分に気をつけて参加しましょう。

集 合=鳥獣保護センター駐車場前 午前9時30分

交 通=道南バス、ウトナイレイクランド下車

☆観察用具、筆記具、昼食、雨具などをご持参ください。

☆交通機関をご利用の方は、各自でお確かめ下さい。

☆いずれの探鳥会も、悪天候でない限り行きます。

☆探鳥会の問い合わせは、

011-563-5158 白澤宅へ

鳥民だより

☆☆☆ 会員名簿 ☆☆☆

【新しく会員になられた方】

- 忠地 和子 〒002-8822
札幌市北区篠路2条5丁目1-5-202
- 堀 さち子 〒069-0852
江別市大麻東町
- 守下 憲治 〒061-1143
北広島市南町4丁目6-4
- 武田由里子 〒004-0033
札幌市厚別区上野幌3-5-11-15
- 佐々木英之 玲子 七菜 〒005-0033
札幌市南区南33条西8丁目6-7
- 片岡 義廣 〒088-1522
厚岸郡浜中町湯沸157
- 中田 純子 〒063-0061
札幌市西区西町北7丁目4-3
- 橋口 順次 〒062-0054
札幌市豊平区月寒東4条19丁目4-12
- 亀田 節子 〒061-3777
石狩郡当別町スエーデンヒルズ E7-1-2
- 細川 幸男 〒003-0836
札幌市白石区北郷6-3-1-49
- 原島 和子 〒003-0023
札幌市白石区南郷通7丁目北3-2
- 猪股 照栄 〒070-8016
旭川市神居6条6丁目1-11
- 笹森 繁明 〒063-0012
札幌市西区福井6-14-11
- 山口 一誠 〒270-1108
我孫子市布佐平和台1-5 A-708

*** 野鳥のカレンダーの販売 ***

今年も「北海道野鳥愛護会」の名前の入ったカレンダーを販売いたします。印刷予定部数は70部で価格は1部1,200円です。早めにお申し込みください。

お渡しは11月のウトナイ湖と12月の野幌探鳥会になりますので必ずお受け取りください。お申し込み時に受け取り場所もお知らせください。

申し込み先 戸津 831-8636 (FAXも同じ)

小堀 591-2836 (FAXも同じ)

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 個人2,000円、家族3,000円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465

HPのアドレス <http://homepage2.nifty.com/aigokai/>